

かりじ
狩路の池

狩路の池 榛原説によって、かつての池の周辺に二基の「狩路の池万葉歌碑」が建てられています。

ひとつは、榛原西小学校にある万葉歌碑です。

大王（おおきみ）は 神にしませば
真木（まき）の立つ 荒山中（あらいやまなか）に 海を成（な）すかも

〔万葉集〕巻三二四一

歌は前回にご紹介しました。歌碑の裏面には、巻三・二二九の歌も刻まれています。詳しくは、今年の四月号・五月号をご覧ください。

そして、もうひとつは、榛原篠楽の極楽寺にある歌碑です。

遠つ人 狩路の池に棲（す）む鳥の
立ちても居ても 君をしぞ思ふ

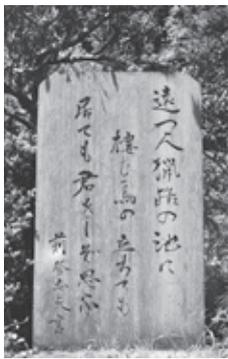
〔万葉集〕巻十二・三〇八九

この歌の作者は、わかりませんが、「遠来の客である雁という名にゆかりをもつ、狩路の池に住む鳥のように、立つても坐っても、しきりにあなたを思いつづけています。」などと解釈されています〔日本古典文学大系〕六。

壬申の乱（天武元年・六七二）では、大海人皇子ら一行は、この「狩路の池」を見ながら隠（名張）へと向かったのでしょうか。

「狩路の池 榛原説」をここで改めてご紹介するまでもなく、以前から「狩路」という名前を使っているところがあります。

ひとつは、宇陀川に架かる「狩路橋」です。もうひとつは、宇陀川沿いの桜並木で「狩路の桜」と名付けられています。桜の時は過ぎてしまいました。宇陀川沿いを散策して「狩路」を探してみませんか。



極楽寺の万葉歌碑
（巻12・3089）



榛原西小学校の万葉歌碑
（巻3・241・239）

文・柳澤一宏（文化財課）

権 コーナー

6月23日から29日は
男女共同参画週間です

みなさんは「ワークライフバランス（仕事と生活の調和）」という言葉をご存じですか。働くすべての人が「仕事」と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった「仕事以外の生活」との調和をとり、両方を充実させる働き方・生き方のことです。

共働きで仕事をしながら子育てする家庭が一般的となり、また核家族化で男性・女性を問わず、介護という問題に直面しています。家族の介護や看護のために離職や転職をする人は、男女とも増えており、仕事と介護、仕事と子育ての両立は、ますます重要な課題となっています。

家で家事などの役割分担やコミュニケーションを図り、互いに支え合うことができるかを考え、仕事も定時に帰れる工夫をするなど、自分らしいバランスのとれた生活を送ろうか。

今年2月に実施した「宇陀市男女共同参画に関する調査」では、「男女共同参画を意識したことがない」と答えた人は、10年前の調査に比べて減少し、一方、ワークライフバランスを実現するために、約4割の方が、「育児休業や介護休業を取りやすい環境を整えること」、約3割の方が、「労働時間の短縮や休暇制度の普及」「給与の男女格差をなくすこと」が必要と答えています。

仕事と家庭のどちらかを選ぶと、一方を犠牲にせざるを得ないというのではなく、両方を大事にすることで、人は幸せを感じます。ワークライフバランスは家庭にとっても企業、地域社会にとっても重要な課題で、一人ひとりがその必要性を理解し、行動に移していくことが大切ではないでしょうか。



〔男で〇、女で〇、共同作業で〇〕平成29年度男女共同参画週間 内閣府標語最優秀作品

